

民俗建築アーカイブ②

故田中銀一氏寄贈写真の活用について

岸本 章

日本民俗建築学会では故田中銀一氏から寄贈された民家の写真をアーカイブとして整理し、デジタル化し、今後の研究のために検索、閲覧可能な状態にして保管することを目標に作業を開始した。

故田中銀一氏は1934年（昭和9年）4人兄弟の長男として横浜市で生まれる。慶應義塾大学経済学部卒業後、父上が経営する横浜潜水衣具製造（株）に勤務、その後、トラックを製造する車体工業（株）に勤務、1993年には同社社長に就任。1990年～1991年、毎月出される社内誌の表紙に民家の写真を掲載されている。1994年に車体工業はいすゞ自動車と合併、同社専務取締役役に就任。1996年退職後は関連子会社の顧問、会長などを勤める。2010年（平成22年）、癌により他界された。

若い頃から文学、音楽、絵画と趣味は多彩で特に万葉集に造詣が深く、またピアノ演奏、作詞、作曲もこなす。

1980年代から民家に興味を持ち、全国を撮り歩く旅が始まった。以後精力的に全国を回り、1989年（平成元年）には横浜で写真展を開催している。

大型カメラ、三脚をかついで、目的地近くまで夜行列車で移動し、現地ではタクシーをチャーターして不便な土地も効率よくまわるという旅を繰り返

していた。撮影旅行はほとんど1人だったが、何度か奥様も同行されている。また、個展で知り合った、民家を描く画家、石川茂男氏といっしょに出かけることもあった。

1986年（昭和61年）、日本民俗建築学会に入会。病を患ってからは奥様が栽培する庭の植物を撮影していたが、2008年、生前に大量の写真を学会に寄贈された。

田中銀一氏の写真は、「民家がある風景」と呼べるもので、建築だけでなく、農地や道などの周辺環境とともに写っていて、景観の中での民家を強く意識しているところに大きな価値がある。昭和50年代の撮影が多いが、すでに失われた景観も多く、外部環境の記録として貴重な資料となっている。アングルの決め方向井潤吉氏の絵画と共通するものがあり、絵画を描く感覚で撮影していたものと思われる。

田中銀一氏の写真は、アングルの決め方向井潤吉氏の絵画と共通するものがあり、絵画を描く感覚で撮影していたものと思われる。「民家がある風景」とも呼べるもので、建築だけでなく、農地や道などの周辺環境とともに写っていて、景観の中での民家を強く意識しているところに大きな価値がある。昭和50年代前後、民家とその周囲の農村景観が急速に失われていく時期の撮影が多い。今ではもう見られない景観が多いばかりでなく、それらを記録した写真も少ない中、外部環境の変遷の記録として貴重な資料となっている。